



第17回 登戸福祉まつりに賛助会員の方々をお招きして

社会福祉協議会の運営は賛助会費の支援を受けて地域福祉活動を行っていることから、3月1日に行われた「登戸福祉まつり」では、日頃の感謝の気持ちを込め、活動の一環である「登戸福祉まつり」に賛助会員の方々をお招きし、地域の福祉活動に触れていただきました。

総務企画部会



11月20日、川崎の水づくりを行う長沢浄水場へ施設見学に行きました。水源は相模川の上流の相模湖、津久井湖。水源から水道水の配水まで大部分は地形の自然流下を利用。環境にやさしく、災害につよく、安全でおいしい水の供給を行っていました。

老人福祉部会



ふれあい会食会は、ひとり暮らし及び昼間独居の方を対象に行われています。食事は事前に献立会議を行い、旬の材料を取り入れ工夫を凝らしたメニューが提供されます。併せて季節の催しなどが行われ参加者に喜ばれています。

青少年福祉部会



青少年と地域の方々と良好な環境を作ることなどを目的に活動しています。親子で楽しめる紙飛行機大会の開催や七夕まつりの実施。子供会への協力として、たまたま子育てまつり、KFJまつりへの参加。また登戸小学校の登戸フェスティバル、節分祭等に協力しています。

障害福祉部会



地域の障害のある方々と共に活動し、障害者への支援の輪が広がることを目的に活動しています。12月9日には地域の障害のある方を「福祉パルたま」に迎え、クリスマス会を開催しました。登戸小学校の登戸フェスティバルにも参加しています。



おかえり。

たくさんのご協力
ありがとうございます!!

平成29年度 賛助会費報告 1,093,000円
(内 731,569円を登戸地区社協に運付)

共同募金・年末たすけあい募金

ご協力ありがとうございます

登戸地区
平成29年度募金総額
3,195,492円

福祉の輪 ひろげて明るい街づくり!

賛助会費のご協力をお願い申し上げます
登戸(登戸・登戸新町)地区社協の主な仕事

- 登戸福祉まつり
- 社会を明るくする運動への協力
- 共同募金・年末たすけあい運動の推進
- 登戸老人いこいの家の運営・協力
- 母親クラブへの後援
- 社協研修会の実施
- ふれあい型老人会食会の実施
- にっこり会
- 広報紙「のぼりと」の発行
- こども会活動への協力
- 障害者団体との交流会・クリスマス会
- 子育てサロン「ひよっこ」への協力

等々
町会、自治会、民生委員児童委員協議会、保護司会からの会費、そして地域の皆さまからの賛助会費によって支えられています。



社協は
社会福祉協議会の
略称



3.31
2018 No.27

発行 登戸地区社会福祉協議会
川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2階
TEL 935-5500
発行人 吉田紀代子
編集人 総務企画部

健康と幸せが守られる明るい福祉の街づくり

最新鋭のごみ処理施設を見学 武蔵野クリーンセンター

11月22日、登戸地区社会福祉協議会は昨年4月に本格稼働し全国から注目されている東京都武蔵野市のごみ焼却施設「武蔵野クリーンセンター」(以下、「センター」という)を視察研修しました。



▲見学廊下ガラスは
タッチパネルには
Seeperが



▶出迎えるロボット

「センター」は耐用年数を経過した市内唯一のごみ処理施設を新しく建設したもの。安全性を高めた最新鋭の焼却・排ガス処理システムの電気と蒸気を生み出し、併用するガスコージェネレーション設備(ガスを燃料に発電し、同時に発生する熱エネルギーを利用)の導入で、災害時も含めた公共設備のエネルギー供給拠点としての機能も兼ね備えています。

この「センター」の特徴は4つあり、①環境の保全に配慮した安全・安心な施設、②災害に強い施設、③景観及び建築デザインに配慮した施設、④開かれた施設という事です。

また煙突からは、近隣住民等で組織する「施設・周辺整備協議会」と話し合っ、市民が誇れる施設として、あえて冬場の寒い日は煙突から白煙が見える工夫もされているとの事でした。

南極の氷に触ってきた! 国立極地研究所 南極・北極科学館



▶元越冬隊員の説明

午後の見学先は、立川市の昭和記念公園近くにある国立極地研究所 南極・北極科学館を見学してきました。案内は4回も越冬隊員として南極に行ったことのある科学館の元広報部長の川久保さんでした。偶然にも月1回長野県松本市からボランティアで来ている日だったので、自らの体験を踏まえた分かりやすい説明でした。本物の南極の氷に触れたときは、「氷の中には数万年前の空気が閉じ込められている」という話や、オーロラの神秘・光の謎の話など、予定時間があっという間に過ぎてしまうほどでした。

今年の視察研修は比較的近場の研修先でしたが、日頃あまり見る事の出来ない充実した一日視察研修となりました。

◆ 登戸は「お互いさま」でまちづくり ◆



登戸地区社協会長
吉田紀代子

登戸地区社会福祉協議会の会長として2期目を迎え、地域の皆様方の登戸地区社協への日ごろのご協力、ご支援に感謝申し上げます。

地域包括ケアシステムが導入されてから3年目を迎えます。「自助・互助・共助・公助」の取り組みを進める上で、「お互いさま」の関係で地域ぐるみの関係を大切にし、登戸地区が住み慣れた安全、安心の地域福祉のまちづくりに取り組んでまいります。

憩い…
集い…
健康に…

特集

登戸老人いこいの家

あれこれ紹介します！

新たな発見がすぐそこに



「登戸老人いこいの家」は多摩区に7つあるいこいの家の一つです。通称「いこいの家」と呼び、高齢の方々に集いの場を提供することにより健康の増進を図ることを目的とした施設です。いろいろな活動、行事、趣味の集いなどの場として、また「ふくし寄合処たま 登戸」を開設して地域の方々の『元気な生活』を後押ししています。

「登戸老人いこいの家」では、作品展、健康教室（マッサージ）、おいしい食事と楽しい会話で人気の会食会、送迎付きのにっこり会、いきいき体操、登戸福祉まつりの展示などの福祉活動や行事、フォークダンス、フラダンス、民謡、踊り、絵手紙、ちぎり絵、俳句など趣味の講座などが開催されています。

もちろん個人での利用もOK、いこいの家に立ち寄ってのんびりとひとときを過ごす事も出来ます。

いろいろな活動や趣味の会に参加して健康の維持を目指したり、多くの人と知り合いになり、楽しい時間を持ちませんか。

現在開催している活動や趣味の講座

ほかにも まだまだ多数開催！

にっこり会



地域のミニデイサービスの先駆としてボランティアの皆さんが活動を始めて今年で20年を迎えました。この会はゲーム・歌等々、参加した方が1日楽しく過ごせるようボランティアの皆さんが毎回趣向を凝らしています。

開催は毎月最終月曜日、時間は午前10時～午後2時まで。自宅前

からの送迎があり歩行が困難な方々にも喜ばれています。

参加者の1人、川島マツエさん（92歳）は「私は1人暮らしの為、毎月ここへ来て皆さんとお喋りしたり、食事が出来るのでほんとうに楽しみにしております」と笑顔いっぱい話してくれました。

この地域でも益々高齢化が進んでおり、地域の皆さんで支え合い、楽しいひとときが過ごせるこの場所と会は貴重と考えます。是非継続して欲しいものです。



いきいき体操

木曜午後のひと時、35分間、ボランティアグループが行っている健康体操です。この日の参加者は21名。音楽に合わせて立ったり座ったり寝転びながらの全身のストレッチ運動で軽い汗をかいていました。

ちぎり絵

毎月1回午前中の会です。会員の皆さんは色紙の上に数種類の和紙をちぎり、色やバランスを考慮しながら貼って絵に仕上げていきます。この細かい作業は脳のトレーニングになるかも知れません。



墨 絵

筆につけた墨と水、筆のスピード、タッチで「岩」も「滝」も変幻自在に描くことができる墨絵は、墨の魅力を最大限に生かしていました。

フォークダンス



現在19名の皆さんが月2回素敵な衣装を着け、和やかな雰囲気と笑顔で練習しています。

練習曲の中には難しいワルツのステップも入っており、綺麗に揃ってのターンに魅了。

ふくし寄合処たま 登戸

多摩区社会福祉協議会が主催し、毎月1回誰でも気軽に集える場所として開催されています。お茶を飲みながら話がしたい、誰かと一緒に過ごしたい、心配事があるけれど、どこに相談すれば良いかわからないなどそんな時、是非行ってみたい場所です。

参加費は無料、赤ちゃんからお年寄りの方までどなたでも自由に参加出来ます。

開催日：毎月第2火曜日
時 間：午後1時30分～3時
お問い合わせ：044-935-5500
(多摩区社会福祉協議会)



登戸老人いこいの家 利用方法

- ・利用対象：60歳以上の川崎市内在住の方。
- ・利用料金：無料
(講座等をご利用される際に、参加費や材料費などがかかる場合があります)
- ・開館時間：9時～16時
- ・休 館 日：日曜、国民の祝日(敬老の日は除く)及び年末年始です。
- ・利用方法：個人で利用する場合は、いこいの家備え付けの「利用簿」に記入の上ご利用ください。団体の場合は、事前に申し込みが必要になります。
- ・住 所：多摩区登戸新町237 (市営バスで「橋下」バス停下車2分)
- ・電 話：044-933-2181

